

第18回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

＜中期目標の期間の終了時において、当該地方独立行政法人の業務を継続させる必要性等に関する意見について＞

- ・ 独立行政法人化したことによる業務上・経営上のプラスの面や、理事長・院長以下、病院職員の皆さんの前向きな努力を実感している。地方独立行政法人として継続を懸念しなければならない理由は考えられず、引続き、継続していただきたい。

＜第二期中期目標 骨子案について＞

○災害・感染症その他緊急時における医療について

「緊急時には自らの判断で医療活動を行うこと」と「市長の求めに応じて対応する」が相反しているが、必要か。どういう場合に「市長の求めに応じて対応する」のか条件を明示してはどうか。

○ チーム医療の実践及び専門性の発揮

在院日数が短くなってきているが、その人がどんな役割の人で何をする人かきちんと説明してもらわないと患者には伝わらない。

○ 市民・患者に開かれた病院

病院側と患者側で前提となる知識量が異なっている。病院側として患者にあらかじめ知っておいて欲しい情報についての広報の仕方を工夫してほしい。

また、「腫瘍内科」「臨床腫瘍科」や「総合内科」「総合診療科」など、違いがわかりにくい診療科名も患者にわかりやすくする工夫をしてほしい。

○ 働きやすい執務環境づくり

トップが吸い上げるだけでなく職員間のコミュニケーションなどのあり方や課題の共有が必要である。